

平成 25 年度鳥取県中部沿岸土砂管理協議会意見に対する対応状況

○主な意見とその対応状況

委員からの意見	対応状況
【天神川左岸】	
(倉吉河川国道事務所：横林副所長) 天神川本川上流（三朝町）で、10月後半から河床掘削工事に入り、2～3万 m ³ 程度土砂が発生するため、調整をお願いする。	(中部県土整備局) 大谷海岸への搬入について、地元、漁協と調整し、12月後半から2月初めにかけて約1万 m ³ の土砂搬入を実施。
(北栄町地域整備課：飯田委員) 西新田場付近に侵食傾向が見られるので、引き続き対応をお願いしたい。	(中部県土整備局) 引き続き、地元、漁協と調整を図りながら対応していく。
【由良川左岸】	
(北栄町地域整備課：飯田委員) 大谷海岸の辺りもよく侵食されて、地元自治会から意見が出ているので、引き続き対応をお願いしたい。	(中部県土整備局) 大谷海岸への搬入について、地元、漁協と調整し、12月後半から2月初めにかけて約1万 m ³ の土砂搬入を実施。
(琴浦町建設課：澤田委員) 八橋川と新川の区間において、侵食が顕著であり、昔は波返し擁壁の全面に前浜があったが、最近はなくなっている。対策をお願いしたい。	(中部県土整備局) 平成 25 年度は、応急的に根固工等の対策を実施し、本年度に具体的な対応策を検討していく。
【全体】	
(鳥取大学：黒岩委員) 現在の海浜の評価手法は、過去からの汀線変動量を基本として評価しているが、ベースとなっている過去の汀線が本当に良好なものであるか不明であり、海浜の評価方法として、信頼性が薄い。現在の海浜を的確に評価できる基準が必要であり、「目安とする浜幅」を設定すべき。	(河川課) 今年度、「目安とする浜幅」の検討を実施しており、H26年度の調整会議で提示。